

令和2年度「市役所の仕事」花まる通信簿(令和元年度実績)

担当課 社会福祉課

Plan	◆事務事業の概要◆		会計区分	一般会計	事業通番	5024
細事業名(事務事業名)	心身障害者通所費助成金・通院交通費助成金(障害者外出支援事業)			開始年度	平成15年度	終了年度 未設定
種類	ソフト事業(任意)	根拠法令	無し		例規等	佐渡市通院費助成金交付要綱、佐渡市中心身障害者及び精神障害者通所援護所等通所費助成金交付要綱
将来ビジョン体系	-					
地方創生体系	-					
事業概要	<心身障害者及び精神障害者通所援護所等通所費助成金> 障害福祉サービスを提供する事業所に通所する障がい者に対し、通所に要した交通費の一部を補助することにより経済的負担を軽減し、障がい者の社会復帰及び自立と社会参加の促進を図ることを目的に、助成金を交付する。 <通院費助成金> 人工透析を受けている者及び特定疾患等により患している者に対し、治療をするための通院に要する交通費の一部を助成することにより経済的負担を軽減し、社会復帰及び自立と社会参加の促進を図ることを目的に、助成金を交付する。					
対象	障害福祉サービスを提供する事業所に通所する障がい者、人工透析を受けている者及び特定疾患等により患している者					
意図(対象をどのようにしたいか)	障がい者等の通院費等を助成し、経済的負担を軽減するとともに社会参加の意欲の向上及び福祉の増進を図る。					

Do	◆将来ビジョン 持続可能な循環型社会の実現に向けた経済活性化戦略指標◆		
	◆まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標別の数値目標及び重要業績評価指数(KPI)◆		
項目名	戦略指標	R1年度現在	R2年度目標
-	-	-	*
-	-	-	*
-	-	-	*

◆事務事業の目標(成果)指標◆

目標(成果)指標名		単位	H30年度実績値	R1年度(評価年度)		R2年度目標値
算式	指標の算式			目標値	実績値	
	助成件数	件	3,731	4,260	3,739	3,840
算式	外出支援件数+通所助成件数					
算式						
算式						

◆事務事業を構成する細事業の事業費・成果指標◆

枝番	細事業名		H30年度決算額	R1年度当初予算額	R1年度予算現額	R1年度決算額	R2年度当初予算額	R3年度以降の予算の方向性	
	指標	目標(成果)指標名	単位	実績値	目標値	実績値	目標値	事業の方向性	
1	指標	通所費助成事業		7,346	8,829	8,829	7,279	7,346	予算 減額
	指標	助成件数	件	1,985		2,220	1,983	1,983	事業 縮小
2	指標	通院交通費助成事業		8,449	9,687	9,687	8,827	8,827	予算 減額
	指標	助成件数	件	1,746		2,040	1,756	1,756	事業 縮小
3	指標							予算 事業	
4	指標							予算 事業	
5	指標							予算 事業	
事業費の合計(千円)				15,795	18,516	18,516	16,106	16,173	
財源内訳	国庫支出金								
	県支出金								
	地方債			14,550	13,900	13,900	15,100	13,600	
	その他			1,245	4,616	4,616	1,006	2,573	

Check		◆事務事業を構成する細事業の評価◆				A：適正である B：検討の余地あり C：見直しすべき	
枝番	細事業名	妥当性	有効性	効率性	課題と対策		
1	通所費助成事業	A	B	C	平成30年4月以降、市内バス運賃につき障がい者割引が改定されたが、それに助成単価が反映されていない(あくまで正規運賃を基準とした助成算定としている)。実質支払運賃を考慮した助成算定の見直しが必要。		
		2 1 1	2 2 2	4 3			
2	通院交通費助成事業	A	B	C	平成30年4月以降、市内バス運賃につき障がい者割引が改定されたが、それに助成単価が反映されていない(あくまで正規運賃を基準とした助成算定としている)。実質支払運賃を考慮した助成算定の見直しが必要		
		2 1 1	2 2 2	4 3			
3							
4							
5							

Action		◆今後の事務事業の方向性◆	
評価 (担当 課長)	事業の方向性	より実態に即した制度とするため、事業内容の一部改善または抜本的な見直しを図る	
	予算の方向性	事業内容を精査し経費縮減を図る	
事業の方向性 (事業全体の課題や改善方策など)		<p>事業趣旨は、いずれも障がい者が通所施設及び医療機関受診に要する交通費を助成し、日中の居場所確保や就労訓練、適切な医療を受けるためのものであるが、他制度の改正により利用者負担が減額されているにもかかわらず、調整していない状況であるため、交通政策課と協議し、適正な利用者負担の軽減措置とすべく見直し、次年度予算に反映することとする。</p> <p>また、実際はバスを利用していない者についてもバス運賃同等の補助を行っているため、本来の事業趣旨を達成すべく事業内容の見直しを行う。</p>	
R2年度予算要求見込額とその増減理由(R1年度比)		<p>障がい者手帳所持者は1乗車200円であるが、利用する施設の所在地により、乗り換え等が必要な利用者があること、また、毎日利用していない者がいること等から、現在交通政策課と公平な利用形態について協議中であるため、現段階では次年度予算見込みは提示できないが、現在1乗車200円以上の支給をしている者がおり、昨年度決算額及び今年度当初予算額からの減額は可能である。</p>	

【参考】

妥当性・有効性・効率性の評価基準表
(通所費助成事業)

評価項目	項目	選択	配点表	
妥当性評価	(1)なぜ市が関与しているのか	1 法令等で市が実施することを義務付けられている事業 2 公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業 3 民間と役割分担が可能であるが市の関与が望ましい事業 4 市が関与することは妥当ではない事業	2	【妥当性評価】 A : 適正である (選択の合計値が1~4点) B : 検討の余地あり (選択の合計値が5~7点) C : 見直しすべき (選択の合計値が8~12点)
	(2)事業を休止・廃止した場合の影響はどうか	1 影響は非常に大きい 2 影響はある程度である 3 影響は克服できる範囲内である 4 影響はほとんどでない	1	
	(3)市民ニーズはどうか	1 現在の市を取り巻く環境からも市民ニーズは高い 2 ある程度は市民ニーズがある 3 ニーズ要望者が限定している 4 市民ニーズは低い	1	
有効性評価	(1)成果の達成状況	1 目標を上回って達成できた (100%以上の達成) 2 概ね達成できた (80%以上の達成) 3 やや達成できなかった (50%以上の達成) 4 達成ができなかった(50%未満の達成)	2	【有効性評価】 A : 適正である (選択の合計値が1~4点) B : 検討の余地あり (選択の合計値が5~6点) C : 見直しすべき (選択の合計値が7~11点)
	(2)上位施策への貢献度	1 貢献度は高い 2 貢献度はやや高い 3 貢献度はやや低い 4 貢献度は低い	2	
	(3)今後の成果向上の可能性	1 成果向上の可能性はある 2 成果は現状維持で推移する 3 成果は下がる	2	
効率性評価	(1)手段(構成する細事業、業務等)の最適化	1 手段を見直し、大きな効果があった。または、既に見直しは終了している。 2 手段を見直し、ある程度の効果があった 3 手段を見直したが、効果はなかった 4 手段の見直しは、特にしなかった	4	【効率性評価】 A : 適正である (選択の合計値が1~4点) B : 検討の余地あり (選択の合計値が5~6点) C : 見直しすべき (選択の合計値が7~8点)
	(2)コストの実績	1 総事業費及び単位コストが改善された 2 総事業費あるいは単位コストが改善された 3 総事業費及び単位コストは改善されなかった 4 総事業費及び単位コストは悪化した	3	

【参考】

妥当性・有効性・効率性の評価基準表
(通院交通費助成事業)

評価項目		項目	選択	配点表
妥当性評価	(1)なぜ市が関与しているのか	1 法令等で市が実施することを義務付けられている事業	2	【妥当性評価】 A : 適正である (選択の合計値が1~4点) B : 検討の余地あり (選択の合計値が5~7点) C : 見直しすべき (選択の合計値が8~12点)
		2 公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業		
	3 民間と役割分担が可能であるが市の関与が望ましい事業			
A	(2)事業を休止・廃止した場合の影響はどうか	1 影響は非常に大きい	1	
		2 影響はある程度である		
		3 影響は克服できる範囲内である		
		4 影響はほとんどでない		
	(3)市民ニーズはどうか	1 現在の市を取り巻く環境からも市民ニーズは高い	1	
		2 ある程度は市民ニーズがある		
		3 ニーズ要望者が限定している		
		4 市民ニーズは低い		
有効性評価	(1)成果の達成状況	1 目標を上回って達成できた (100%以上の達成)	2	【有効性評価】 A : 適正である (選択の合計値が1~4点) B : 検討の余地あり (選択の合計値が5~6点) C : 見直しすべき (選択の合計値が7~11点)
		2 概ね達成できた (80%以上の達成)		
	3 やや達成できなかった (50%以上の達成)			
B	(2)上位施策への貢献度	1 貢献度は高い	2	
		2 貢献度はやや高い		
		3 貢献度はやや低い		
		4 貢献度は低い		
	(3)今後の成果向上の可能性	1 成果向上の可能性はある	2	
		2 成果は現状維持で推移する		
		3 成果は下がる		
効率性評価	(1)手段(構成する細事業、業務等)の最適化	1 手段を見直し、大きな効果があった。または、既に見直しは終了している。	4	【効率性評価】 A : 適正である (選択の合計値が1~4点) B : 検討の余地あり (選択の合計値が5~6点) C : 見直しすべき (選択の合計値が7~8点)
		2 手段を見直し、ある程度の効果があった		
C	(2)コストの実績	3 手段を見直したが、効果はなかった	3	
		4 手段の見直しは、特にしなかった		
		1 総事業費及び単位コストが改善された		
		2 総事業費あるいは単位コストが改善された		
		3 総事業費及び単位コストは改善されなかった		
		4 総事業費及び単位コストは悪化した		